

複合動詞後項の位置づけ

南 場 尚 子

一 はじめに

- ・小説を一週間で書き上げる
- ・最後まで走りぬく

「動詞＋動詞」型の複合動詞の後項には、右に示した「上げる」「ぬく」の如く、単独で用いる場合とは異なり、意味の具象性が稀薄になり形式的な意味を前項に添える働きをするものがある（これを以下、「後項動詞」とする）。

これらの「後項動詞」については、湯沢幸吉郎氏（一九三四⁽¹⁾）、阪倉篤義氏（一九四九⁽²⁾・一九八六⁽³⁾）、福島邦道氏（一九六四⁽⁴⁾）、寺村秀夫氏（一九八四⁽⁵⁾）等により研究がなされてきたが、その扱いについては、動詞・接尾辞・補助動詞など諸氏により異なりがある。

また、特に接尾辞と補助動詞は、その定義に重複が見られるなど、これらの境界線も明確にされていない。

そこで、本稿では、「後項動詞」を意味特徴や機能の点から下位分類するとともに、その周辺領域にある接尾辞・助動詞・補助動詞との相互関係をいま少し整理することにより、「後期動詞」の位置づけについて考えてみたい。

まず、「後項動詞」として扱い得るものの採集から始めなければならぬ。そこで、本稿では可能な限り客観的に「後項動詞」を選定すべく、現代の数種の国語辞典の中からそれとして扱い得るものを採集することにした。この調査を第一次調査と呼ぶことにする。

一一 第一次調査の概要と結果

まず、以下のものを抜き出すことにする。

。『学研国語大辞典』（以下「学研」と略す）の品詞表示において「接尾語」とされている動詞のうち、動詞連用形に下接するもの

。『岩波国語辞典（第四版）』（以下『岩波』と略す）の意味記述において、「動詞の連用形につき（接尾語的に）」とされている動詞

。「例解新国語辞典」（以下『例解新』と略す）の品詞表示において、「接尾語」や「造語成分」とされている動詞

。「現代国語例解辞典」（以下『現代国語』と略す）の意味記述において、「補助動詞」（ただし、『助詞「て」に下接する』とあるものは除く）や「補助動詞的に用いる」・「動詞の連用形について……」とされている動詞

これらのうち、複数の辞書に共通して右の如き記述が見られるものを採用することにした。

次に、それらを『複合動詞資料集』⁽⁷⁾（以下『資料集』と略す）と照合し、複数の辞書に取り上げられてはいないが、単独では用いられない動詞や単独で用いる場合とは異なる意味で複合動詞後項に用いられているものを補足した。

第一次調査で得られた動詞は、異なり語数で六九語であった。本稿ではこれらを「後項動詞」として扱う。

さて、ここで注意すべきは、『資料集』では意味を捨象しているという性格上、単独で用いる場合と「後項動詞」として用いる場合の区別がなく、一括して扱われていることである。たとえば「だ

す」の項では、「追い出す」「考え出す」「照らし出す」……と用例が挙げられている。しかし、「考え出す」を例に考えてみると次のようなことが言えるのではないか。

・皆で解決策を考え出した。
・皆がにわかに原発問題を考え出した。

前者の「出す」は、「結論を出す」「答えを出す」という場合に用いられる、「ある結果をもたらす」（『学研』）意・「考えたりくふうしたりしたうえで、ある結果をしめす」（『例解新』）意であり、この場合の「考え出す」は、「考える」という行為の結果、（解決策を）「無」から「有」へと出現させることを意味している。

一方、後者の「出す」は「後項動詞」で、「その動作を始める意」（『現代国語』）を表しており、この場合の「考え出す」は、「考える」という行為の開始を意味している。

このように、一つの複合動詞であっても、文中の環境により複数の意に解し得る場合があるのである。従って、『資料集』の用例を語レベルでは考えず、常に可能な限りの文を設定し、その中で考え、整理することにした。

ではまず、「後項動詞」を意味特徴別に分類してみよう。これについては、式部良明氏⁽¹⁰⁾が筆者のいう「後項動詞」を「複合動詞における補助動詞的要素」として扱われ、分類されている。

今、式部氏の用いられた名称を一部借用して「後項動詞」を意味
 特徴別に分類し、用例数の多い順に挙げると以下のようなになる。

なお、※印を付したものは後述する。

一、強調

※きる・こむ・たてる・※はてる・つける・たつ・い
 る・かえる・※つくす・まくる・※あがる・まわす・
 ちらす・※あげる・とばす・※ぬく・はらう・こくる
 ・しきる・のめす・たくる・あさる・こける・※はた
 す・ちぎる

二、動作・作用の方向を示すもの

- ① 相互 あう・かわす
 - ② 交錯 かう
 - ③ 充滿 わたる・わたす
 - ④ 彷徨 まわる・あるく
 - ⑤ 対向 こむ・かえす・かかる・かける
 - ⑥ 下向 くだす
 - ⑦ 結合 あう
- 三、動作・作用の起こり方を示すもの
- ① 開始 だす・はじめる・かける・かかる・そめる
 - ② 継続 くらす・わたる

③ 中止 さす

④ 完遂 ※きる・おわる・※つくす・とおす・あげる・きれる

・※ぬく・おえる・さる・※あがる・※はてる・お
 せる・※はたす

⑤ 習慣 つける・ならわす

⑥ 失敗 そこなう・そこねる・そんなじる・そびれる

⑦ 難易 あぐむ・あぐねる・なやむ・わびる・わずらう・こな
 す・すます

⑧ 可能・不可能 える・かねる

⑨ 過度 すぎる

⑩ 再行 なおす・かえす

四、その他

① 好意 こがれる

② 嫌悪 あきる・くたびれる

③ 放任 すこす

④ その他 ふるす・やる・いる

次に、これらを『資料集』の用例数順に配列すると、表1のよう
 になる(表中の※印を付したものは後述する)。

さて、表1及び意味特徴別分類をもとに、第一次調査の結果につ
 いて考えてみたい。

表1 『資料集』における「後項動詞」の用例数順位

順位	「後項動詞」	例数	順位	「後項動詞」	例数	
①	だす	379	②7	そこなう	20	
②	える	374	②8	あるく	19	
③	はじめる	347	③0	かえる	19	
④	あう	240	{ 相互 (238)	③1	おえる	18
			{ 結合 (2)	③2	そ(初)める	16
			{ 開始 (184)	③3	まくる	15
⑤	かける	206	{ 対向 (8)		かわす	14
			{ 両方 (14)		さる	14
⑥	こむ	195	{ 対向 (132)	③6	まわす	14
			{ 強調 (63)	③7	ちらす	11
⑦	きる	187	{ 強調 (109)	③9	すごす	10
			{ 完遂 (78)		とばす	10
⑧	すぎる	156		④1	あきる	9
⑨	かねる	94			こなす	9
			{ 開始 (59)		くらす	8
⑩	かかる	80	{ 対向 (17)	④3	そこねる	8
			{ 両方 (4)		おおせる	7
			{ 習慣 (47)		そんじる	7
	つける	80	{ 強調 (25)		はらう	7
			{ 両方 (8)	④7	ふるす	7
⑫	なおす	71			あくむ	5
⑬	*つくす	70	{ 完遂 (55)	④9	さす	5
			{ 強調 (15)		あくねる	4
⑭	おわる	60			か(交)う	4
⑮	*あげる	46	{ 完遂 (36)		こくる	4
			{ 強調 (10)		しきる	4
			{ 対向 (24)		そびれる	4
⑯	かえす	43	{ 再行 (17)		のめす	4
			{ 両方 (2)	⑤6	やる	4
⑰	たてる	42			こがれる	3
⑱	とおす	41			たくる	3
⑲	*はてる	40	{ 強調 (31)		なやむ	3
			{ 完遂 (9)		わたす	3
⑳	わたる	33	{ 充満 (29)	⑥1	わびる	3
			{ 継続 (4)		あさる	2
㉑	*ぬく	32	{ 完遂 (23)		くだす	2
			{ 強調 (9)		くたびれる	2
㉒	まわる	29			こける	2
㉓	あがる	26	{ 強調 (14)		すます	2
			{ 完遂 (12)		ならわす	2
㉔	きれる	25			*	{ 完遂 (1)
㉕	いる	22	{ 強調 (20)		はたす	{ 強調 (1)
			{ その他 (2)		わずらう	2
㉖	たつ	21		⑥9	ちぎる	1

複合動詞後項の位置づけ

第一に、「後項動詞」には用例数三〇〇以上のものから、用例数一つのもので幅のあることがわかる。ただし、用例数三〇〇以上というのはあくまでも「資料集」の上のことであって、更に造語することは可能かと思われ、またそのことにより順位が変動する可能性もあるであろう。しかし、用例数一つの「ちぎる」に関しては、「資料集」のみならず文学作品等⁽¹¹⁾においても「ほめちぎる」一例しか見出せず、これが最下位に位置するのは動かせないように思われる。

第二に、上位に位置するものは、「だす」「はじめる」「かける」の如き「動作・作用の起り方を示すもの」、その中でもとりわけ「開始」を表すものや、「える」「かねる」の如き「可能・不可能」を表すものが目立ち、それに「こむ」「きる」の如き「強調」を表すものが含まれていると言えよう。

第三に、一語で複数の意味特徴を有するものは、ほとんどが二十五位までに位置していることもわかる。

第四に、「強調」や「完遂」を表すものが多いこともわかる。その中でも、「きる」「つくす」「ぬく」「あがる」「あげる」「はてる」「はたす」は「強調」「完遂」の両者に共通する語である。これらは、意味特徴別分類及び表1において※印を付したものである。

さて、これまで前項動詞についてはまったく触れずにきたが、第

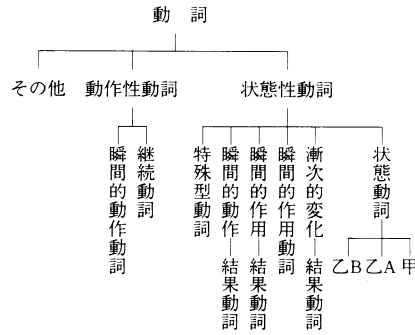
一次調査の結果から、「後項動詞」と前項動詞との結合条件についての考察が不可欠であると思われる。前項動詞の語彙的条件、つまり自動詞か他動詞か、意志動詞か無意志動詞か、更にはいわゆる「継続動詞」か「瞬間動詞」かという点と意味特徴や評価⁽¹²⁾について具体的に見ていかねばなるまい。そのことにより、更に深い考察が可能となるのではないか。これらについての調査を第二次調査とする。

三 前項動詞との結合条件

第二次調査を行うにあたってまず考えるべきことは、動詞の分類についてである。

これについては、金田一春彦氏⁽¹³⁾（一九五〇）、藤井正氏⁽¹⁴⁾（一九七六）、吉川武時氏⁽¹⁵⁾（一九七六）等によって詳細な分類がなされてきた。しかし、いずれの場合もなお再考の余地があると思われる。そこで、筆者はこれら既存の分類を十分参考にしながら独自の分類を試みることにした⁽¹⁶⁾。動詞の分類自体が非常に大きなテーマであり、ともすれば主観的になりやすいため慎重に扱うべき問題であるが、本稿の企図する「後項動詞」の性格を説明する手続きとして、ここに筆者の分類とその特徴を示し、それを用いて結合条件を調査することをお断りしておく。

筆者の分類をまとめると次のようになる。



以下は各々の特徴とその例である。

状態性動詞

状態動詞甲

「～ている」の形にならないもの。

「ある」「いる」・可能動詞

状態動詞乙A

「～ている」の形で、有情物の内面的状態や物質の属性・状態を表す。

複合動詞後項の位置づけ

「怯える」「感謝する」「悲しむ」「困る」「悟る」「尖る」「もつれる」「よじれる」等。

状態動詞乙B

動作性の継続動詞が習慣的に反復された場合や、長時間かけて行われる行為を表す動詞。「～ている」の形で、現在の習慣の事実を表す。

「暮らす」「住む」「育てる」「勤める」「通う」「営む」「鍛える」等。

漸次的変化—結果動詞

「～ている」の形で、主体の漸次的変化後の結果を表す。自然現象・肉体的変化を表す動詞が多い。「だんだん～てきた」と言える。

「くもる」「生える」「疲れる」「ふとる」「やせる」等。

瞬間的作用動詞

瞬間的に終る偶然的作用を表す動詞。

「～ている」の形で、過去のある時点における主体の経験を表す。

「遭遇する」「目撃する」「瞥見する」等。

瞬間的作用—結果動詞

「～ている」の形で、瞬間的に起こる主体の変化の結果を存続

を表す。

「～はじめる」の形では複数主体となる。「死ぬ」「消える」

「生まれる」「起こる」等。

瞬間的動作—結果動詞

動作自体は瞬間的に終るが、その結果が存続しているため、

「～ている」の形で、主体が現在その状況下にあることを表す。

「しゃがむ」「背負う」「立つ」「座る」「起きる」等。

特殊型動詞

「～ている」の形のまま用いられる動詞（ただし連体用法は

除く）。

「すぐれる」「そびえる」「ばかげる」「ありふれる」等。

動作性動詞

継続動詞

ある時間内続いて行われる動作・作用を表す動詞。「～ている」の形で、その動作・作用が現在進行中であることを表す。

「～はじめる」「～おわる」と言える。

「読む」「書く」「食べる」「泳ぐ」「見る」「する」「降る」等。

瞬間的動作動詞

瞬間的に終る動作を表す。

「～ている」の形で、その動作が反復されていることを表し、継続動詞と同等になる。

「打つ」「蹴る」「くぐる」「振る」「殴る」「叩く」「折る」等。その他

単独では用いられない動詞。「～ている」を下接し得ない。

「唾む」「かなぐる」「赤む」等。

これらを基準に「資料集」の用例の前項動詞を分類し、「後項動

詞」との結合状況を表1の順で示したのが表2である。「後項動詞」

が複数の意味特徴を有する場合に用いた「ひどく～する」等の表現

は、主に第一次調査で使用した辞書の記述に従ったが、辞書に詳細

な記述のないものについては、意味特徴別分類の表現を用いた。

また、表3は表2をもとに作成した「後項動詞」の総合順位であ

る。

これらの表から、以下のことが指摘されよう。

ほとんどの種類の動詞と結合し得るのは、「だす」(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100) (101) (102) (103) (104) (105) (106) (107) (108) (109) (110) (111) (112) (113) (114) (115) (116) (117) (118) (119) (120) (121) (122) (123) (124) (125) (126) (127) (128) (129) (130) (131) (132) (133) (134) (135) (136) (137) (138) (139) (140) (141) (142) (143) (144) (145) (146) (147) (148) (149) (150) (151) (152) (153) (154) (155) (156) (157) (158) (159) (160) (161) (162) (163) (164) (165) (166) (167) (168) (169) (170) (171) (172) (173) (174) (175) (176) (177) (178) (179) (180) (181) (182) (183) (184) (185) (186) (187) (188) (189) (190) (191) (192) (193) (194) (195) (196) (197) (198) (199) (200) (201) (202) (203) (204) (205) (206) (207) (208) (209) (210) (211) (212) (213) (214) (215) (216) (217) (218) (219) (220) (221) (222) (223) (224) (225) (226) (227) (228) (229) (230) (231) (232) (233) (234) (235) (236) (237) (238) (239) (240) (241) (242) (243) (244) (245) (246) (247) (248) (249) (250) (251) (252) (253) (254) (255) (256) (257) (258) (259) (260) (261) (262) (263) (264) (265) (266) (267) (268) (269) (270) (271) (272) (273) (274) (275) (276) (277) (278) (279) (280) (281) (282) (283) (284) (285) (286) (287) (288) (289) (290) (291) (292) (293) (294) (295) (296) (297) (298) (299) (300) (301) (302) (303) (304) (305) (306) (307) (308) (309) (310) (311) (312) (313) (314) (315) (316) (317) (318) (319) (320) (321) (322) (323) (324) (325) (326) (327) (328) (329) (330) (331) (332) (333) (334) (335) (336) (337) (338) (339) (340) (341) (342) (343) (344) (345) (346) (347) (348) (349) (350) (351) (352) (353) (354) (355) (356) (357) (358) (359) (360) (361) (362) (363) (364) (365) (366) (367) (368) (369) (370) (371) (372) (373) (374) (375) (376) (377) (378) (379) (380) (381) (382) (383) (384) (385) (386) (387) (388) (389) (390) (391) (392) (393) (394) (395) (396) (397) (398) (399) (400) (401) (402) (403) (404) (405) (406) (407) (408) (409) (410) (411) (412) (413) (414) (415) (416) (417) (418) (419) (420) (421) (422) (423) (424) (425) (426) (427) (428) (429) (430) (431) (432) (433) (434) (435) (436) (437) (438) (439) (440) (441) (442) (443) (444) (445) (446) (447) (448) (449) (450) (451) (452) (453) (454) (455) (456) (457) (458) (459) (460) (461) (462) (463) (464) (465) (466) (467) (468) (469) (470) (471) (472) (473) (474) (475) (476) (477) (478) (479) (480) (481) (482) (483) (484) (485) (486) (487) (488) (489) (490) (491) (492) (493) (494) (495) (496) (497) (498) (499) (500) (501) (502) (503) (504) (505) (506) (507) (508) (509) (510) (511) (512) (513) (514) (515) (516) (517) (518) (519) (520) (521) (522) (523) (524) (525) (526) (527) (528) (529) (530) (531) (532) (533) (534) (535) (536) (537) (538) (539) (540) (541) (542) (543) (544) (545) (546) (547) (548) (549) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (560) (561) (562) (563) (564) (565) (566) (567) (568) (569) (570) (571) (572) (573) (574) (575) (576) (577) (578) (579) (580) (581) (582) (583) (584) (585) (586) (587) (588) (589) (590) (591) (592) (593) (594) (595) (596) (597) (598) (599) (600) (601) (602) (603) (604) (605) (606) (607) (608) (609) (610) (611) (612) (613) (614) (615) (616) (617) (618) (619) (620) (621) (622) (623) (624) (625) (626) (627) (628) (629) (630) (631) (632) (633) (634) (635) (636) (637) (638) (639) (640) (641) (642) (643) (644) (645) (646) (647) (648) (649) (650) (651) (652) (653) (654) (655) (656) (657) (658) (659) (660) (661) (662) (663) (664) (665) (666) (667) (668) (669) (670) (671) (672) (673) (674) (675) (676) (677) (678) (679) (680) (681) (682) (683) (684) (685) (686) (687) (688) (689) (690) (691) (692) (693) (694) (695) (696) (697) (698) (699) (700) (701) (702) (703) (704) (705) (706) (707) (708) (709) (710) (711) (712) (713) (714) (715) (716) (717) (718) (719) (720) (721) (722) (723) (724) (725) (726) (727) (728) (729) (730) (731) (732) (733) (734) (735) (736) (737) (738) (739) (740) (741) (742) (743) (744) (745) (746) (747) (748) (749) (750) (751) (752) (753) (754) (755) (756) (757) (758) (759) (760) (761) (762) (763) (764) (765) (766) (767) (768) (769) (770) (771) (772) (773) (774) (775) (776) (777) (778) (779) (780) (781) (782) (783) (784) (785) (786) (787) (788) (789) (790) (791) (792) (793) (794) (795) (796) (797) (798) (799) (800) (801) (802) (803) (804) (805) (806) (807) (808) (809) (810) (811) (812) (813) (814) (815) (816) (817) (818) (819) (820) (821) (822) (823) (824) (825) (826) (827) (828) (829) (830) (831) (832) (833) (834) (835) (836) (837) (838) (839) (840) (841) (842) (843) (844) (845) (846) (847) (848) (849) (850) (851) (852) (853) (854) (855) (856) (857) (858) (859) (860) (861) (862) (863) (864) (865) (866) (867) (868) (869) (870) (871) (872) (873) (874) (875) (876) (877) (878) (879) (880) (881) (882) (883) (884) (885) (886) (887) (888) (889) (890) (891) (892) (893) (894) (895) (896) (897) (898) (899) (900) (901) (902) (903) (904) (905) (906) (907) (908) (909) (910) (911) (912) (913) (914) (915) (916) (917) (918) (919) (920) (921) (922) (923) (924) (925) (926) (927) (928) (929) (930) (931) (932) (933) (934) (935) (936) (937) (938) (939) (940) (941) (942) (943) (944) (945) (946) (947) (948) (949) (950) (951) (952) (953) (954) (955) (956) (957) (958) (959) (960) (961) (962) (963) (964) (965) (966) (967) (968) (969) (970) (971) (972) (973) (974) (975) (976) (977) (978) (979) (980) (981) (982) (983) (984) (985) (986) (987) (988) (989) (990) (991) (992) (993) (994) (995) (996) (997) (998) (999) (1000)

「はじめる」(3)・「あう」(2) (相互) (4)・「かける」(1) (開始) (11)・「とおす」(19)で、ほとんどが上位に位置するものである。

逆に、下位に位置するものは、それらの前項動詞にある一定の傾向のあることが認められる。

表2-1 前項動詞の語彙的性格にみる「後項動詞」との結合状況

	状態性動詞										動作性動詞	その他	前項動詞の性格等
	自他	無意	状態甲	状態乙	漸	瞬	瞬	瞬	瞬	特殊型			
だす	(379)	191 186 2	146 232 1	1 38 (「思える」)	14 13	8 60 5 16 37 2	200	12 (反)					▷(反)=その動作の反復を表す。
える	(374)	119 238 17	70 286 18	1 14 (「ある」)	13 29	4 58 54 7	192	5					▷重複3 「離れる」(漸・瞬・瞬・瞬) 「離れる」(継続・瞬作) 「変化する」(漸・瞬・瞬作)
はじめる	(347)	169 175 3	128 216 3	15 13 64	10 1 23 34	18 (主体・対象が複数又は反復)	216	5 (反)					▷重複5 「開く」「吹く」「増す」(以上、漸・継続) 「昇える」(漸・瞬・瞬作) 「持つ」(継続・瞬動結)
あう	(240)	90 148	61 177	30 4	10 1 23 34		120	10	6				▷その他6 「唾む」「かなる」 「離る」「なする」 「まつわる」「陸む」
		~して ~する ~一緒になる(2)	2	2	1 1								
かいたる	(206)	開始のみ (184)	113 71	89 94 1 (「上がる」)	8 1 48 1 29 21 1 (「上がる」)		72	3					▷相手を要するもの
		対向のみ (8)	2 6	1 7 (「のす」)	1 1	2	4						
		面方 (14)	5 8 1 (「喋る」)	14		2	10	2					
		~して中に 入れる (85)	85	85		26	52	7					
こむつ	(次頁へつ)	~して中に 入る (47)	47	25 22	4 1 8 7 7		17	3					

こむ (195)	熱心に ～する (16)	5	11	16	2		14										
	すっかり ～する (13)	11	2	6	7	7	1	5					▷状態性・ニュートラル				
	ひどく ～する (12)	10	2	8	4	4	3	1	1	3			▷アイテナス評価				
	十分に ～する (11)			11						11			▷物的対象を要する				
	攻撃的 (4)	1	3 (「どなる」)	4						3	1 (反)		▷「収める」「談ずる」 「どなる」「殿る」				
	強く ～する (4)		4	1	3					4							
	～して 動かない (3)	3		3					3				▷「屈む」「しゃがむ」 「座る」				
	きる (187)	47		47	16	29		1 (「ほかげる」)		1			▷状態性 アイテナス評価				
	完全に ～する (44)	33	10 1 (「脱却する」)	32	11 1 (「脱却する」)	12	13	12	4	1 (「決まる」)		2 (「振る」 「踏む」)		▷擬動結 ⁴ 「断る」「去る」「死ぬ」 「捨てる」			
	全部(全体を) ～する (42)	6	36	3	39	3		5	13		21		▷動作の対象を要する (量的・空間的)				
	すっかり ～し終える (36)	19	17	1	35		1 (「勤める」)		4		30	1					
	十分に ～する (16)	14	2	13	3	3	5	8					▷状態性 アイテナス評価				
	はつきり ～する (2)		2	2							1	1					
すぎる	(156)	92	64	71	83	2	4	33	4	21	1	14	13	61	4	1	▷扶甲 ⁴ 「ある」「いる」「切れる」 「読める」

表 2-2

	自	他	向	無	意	向	状態性動詞						動作性動詞		その他	前項動詞の性格等			
							状	状	状	漸	瞬	瞬	瞬	向			特	継	瞬
かねる (94)	肯定形・否定形 両方可 (80)						20	60		80	6	1	12	17		42	1	1	
	否定形のみ可 (14)						11	3	14		2	3	7	2					
かかる (80)	開始のみ (59)						49	9	1	37	2	23	11	9		12	2		▷重複1 「開く」(漸・継続) 自然現象を表すものが多 い。
	対向のみ (17)						10	7	7	10	1	1	8	8		6	1		▷「襲撃」を表すもの13例 「移動」を表すもの8例
	両方 (4)						2	2	4				2	2		1	1		
つける (80)	習慣のみ (47)						7	40		47	1	1	6	6		37	2		
	強調のみ (25)						2	23		1 24 (「照る」)	1	1	1	2		15	6		▷フエーンズ評価(暴力的) 及の調理に関するもの
なおす	両方 (8)						1	7		8	1				4	3			
	(71)						9	62		3	68	3	1	14		52	1		
つくす (70)	ことごとく ~する (55)						4	51		7	48	1	7	6		40	1		
	極限まで ~する (15)						10	5		10	5	2	7	1		5			
おわる	(60)						7	53		2	58	2			57	1 (反)		▷漸2 「退化する」「閉する」	

あげる (46)	～し終わる (36)	2	34	36	4		32	2	▷動作性 ニュートラル	
	ひとく ～する (8)	3	5	2	6		7	1 (反)	▷動作性 マイナス評価	
	十分に ～する (2)			2			2		▷動作性 プラス評価	
かえす (43)	対向のみ (24)	7	17	3	21	1 (「照る」)	4	12	7	▷相手を要するもの
	再行のみ (17)	2	15	2	15			17		▷相手を要さぬもの
	両方 (2)			2				2		▷「聞く」「見る」
たてる (42)		11	31	3	39		1 (「暴く」)	36	3 (反)	▷「言う」「述べる」等の 言語活動を「養うもの」等の 攻撃的なもの9例
と話す (41)		21	20	11	30	9	1 1 1 4	25		
はてる (40)	限界まで ～する (27)	26	1 (「さげすむ」)	27		6	21			状態性 マイナス評価
	最後まで ～する (9)	2	7	1	8			9		
	すっかり ～する (4)	3	1 (「忘れる」)	4			4			
わたる (33)	すみずみまで ～する (29)	29		29		9	15 2 3			▷状態性・自然現象を表 すものが多い。
	長い間 ～する (4)	4		2	2	1	(「あごかれる」)	3		

表 2-3

	自	他	向	無	意	向	状態性動詞						動作性 動詞	継続 動詞	その他	前項動詞の性格等								
							状 甲	状 乙A	状 乙B	漸 作	瞬 作 結	瞬 動 結					面 瞬 結	特殊 型						
ぬく (32)	最後まで ~する (22)	9	13	1	21	1	1	2	2	2	1	1	1	18										
																	1	2	1	1	1	1	1	1
																	4	2	4	2	4	1	1	1
	ひどく ~する (6)	5	1	3	4	2	2	2	2	2	2	2	1	1		▷状態性 ライナス評価								
																	1	3	1	2	2	2	2	2
まわる	(29)	19	10	2	27	1	1	1	1	1	1	1	27	1		▷動作性の動詞のうち、 移動性のも20例 ニエートラル24例 ライナス評価3例								
																	2	27	1	1	1	1	1	1
あがる (26)	~し終る (12)	1	11	1	11	1	1	1	1	1	1	1	11			▷動作性 「できる」は例外								
																	12	11	1	4	7	1	1	
																	11	1	1	4	7	1	1	
	すっきり ~する (2)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				▷状態性 ライナス評価								
																	2	2	2	2	2	2	2	2
きれる	(25)	5	20	4	21	4	1	1	1	4	3	10	2											
																	9	4	9	4	6	1	6	
いる (22)	深く ~する (13)	9	4	9	4	6	1	1	1	1	1	6												
																	5	5	5	5	5	5	5	
	今にも ~しそうだ (2)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2													
																	2	2	2	2	2	2	2	2

	ひびく ～する (2)	2		2					1	1			
たつ	(21)	21		18	3	7	8	1		5			
そこなう	(20)	8	12	2	18		1	6		11	2		
あるく	(19)	10	9		19					18	1		
かえる (19)	ひびく ～する (17)	17		17		4	8	3		2		▷ライナス評師	
	しつかり ～する (2)	2		2			2					▷ライナス評師	
おえる	(18)		18		18		1			14	3		
そ(初)める	(16)	13	3	12	4		1	8	4	1		▷継続2 「見る」「見る」	
まぐる	(15)	3	12		15					15		▷動作性 ニュートラル	
かわす	(14)	6	8	4	10			2		11	1		
さる	(14)		14		14			10		4			
まわす	(14)		14		14					12	2	▷動作性 ニュートラル「乗る」・ 「引く」等8例 ライナス評師 「びつく」・「ひねる」等 6例	
ちらす	(11)	6	5	1	10	1 (「いぼる」)		2		6	1	1	▷狂暴性を意味するもの

表 2-4

	自 他 向	無 意 向	状態性動詞					動作性動詞		その他	前項動詞の性格等			
			状 甲	状 CA	状 B	漸 作	瞬 作	瞬 結	瞬 動 結			面 瞬 結	特 殊 型	継 続
すこす	(10) 3 7	2 8						1			9	6		▷主に動作性 ニュートラル
とばす	(10) 1 9 〔「笑う」〕	10						1			3	6		▷「ニュートラル」3例 「完る」「書く」「笑う」 「マヤチ」の評価 (暴力的)の7例
あきる	(9) 2 7	9									9			▷ニュートラル
こなす	(9) 1 8	9									9			
くらす	(8) 5 3	3 5			1 (「嘆く」)		1				6			
そこねる	(8) 5 3	1 7				1 (「荒れる」)	4				3			
おおせる	(7) 3 4	7					2				5			
そんじる	(7) 1 6 〔「死ぬ」〕	7					4				3			
はらう	(7) 1 6 〔「酔う」〕	1 6 〔「酔う」〕			1 (「酔う」)		3				3			
ふるす	(7) 1 6 〔「住む」〕	7			1 (「酔う」)		1 (「持つ」)				5			
あぐむ	(5) 5	5									4	1		
さす	(5) 5	5									5			
あぐねる	(4) 4	4									4			

か(交)う	(4)	4	4	2	2			
こくる	(4) 1 【「熟る」】	3	4			4		
しきる	(4)	4	4			4	▷自然現象を表すもの	
そびれる	(4)	2	2	4	1	3		
のめす	(4)	4	4			4	▷暴力的動作	
やる	(4)	1	3	1	3	3	▷「さめる」は否定形のみ可	
こがれる	(3)	3	1 2 【「恋う」】	3			▷「思う」「恋う」「待つ」	
たぐる	(3)	3	3			2	1	▷「塗る」「踏む」「振る」
なやむ	(3)	2	1	2	1	1	▷「思う」「のびる」「行く」	
わたす	(3)	3	3			3	▷「眺める」「張る」「見る」	
わびる	(3)	2	1	1	1	1	▷「嘆く」「住む」「待つ」	
あさる	(2)	2	2			2	▷「買う」「読む」	
くたす	(2)	2	2			2	▷「書く」「読む」	

表 2-5

	自	他	両	無	意	両	状態性動詞					動作性動詞		その他	前項動詞の性格等
							特殊型	両隣結	隣動結	隣作結	漸作	状態CB	状態CA		
くだびれる	(2)	1	1	1	1	1							2		▷「噂ぐ」(擬人法の場合)「待つ」
こける	(2)	2				2							2		▷「眠る」「笑う」
すます	(2)	1	1			2			1				1		▷「する」「成る」
ならわす	(2)					2							2		▷「言う」「呼ぶ」
わずらう	(2)					2		2							▷「案じる」「思う」
はたす (2)	しつかり~ してしま(1)	1				1							1		▷「使う」
		極限まで ~する (1)	1				1						1		▷「罵る」
ちぎる	(1)	1				1							1		▷「はめる」

表3 「後項動詞」総合順位

順位	「後項動詞」	用例数	順位	「後項動詞」	用例数	順位	「後項動詞」	用例数
①	だす	379		そめる	16		ぬく(すっかり～する)	4
②	える	374	③⑧	まくる	15		はてる(すっかり～する)	4
③	はじめる	347		かねる(否定形のみ)	15		わたる(長い間～する)	4
④	あう(互いに～する)	238		きる(十分に～する)	15		あぐねる	4
⑤	かける(開始)	184		つくす(極限まで～する)	15		かう	4
⑥	すぎる	156	④⑨	かける(開始・対向)	14		こくる	4
⑦	こむ(～して中に入れる)	85		かわす	14		しきる	4
⑧	かねる(肯定・否定)	79		さる	14		そびれる	4
⑨	なおす	71		まわす	14		のめす	4
⑩	おわる	60	④⑥	いる(深く～する)	13		やる	4
⑪	かかる(開始)	59		こむ(すっかり～する)	13	④⑨	こがれる	3
⑫	つくす(ことごとく～する)	55		あがる(～し終る)	12		こむ(～して動かさない)	3
⑬	きる(ひどく～する)	48	④⑧	あがる(ひどく～する)	12		たくる	3
⑭	こむ(～して中に入る)	47		こむ(ひどく～する)	12		なやむ	3
	つける(習慣)	47	⑤⑩	こむ(十分に～する)	11		わたす	3
⑯	きる(完全に～する)	44		ちらす	11	⑨⑩	わびる	3
⑰	きる(全部～する)	42	⑤⑩	すごす	10		あう(～して一緒にになる)	2
	たてる	42		とばす	10		あがる(すっかり～する)	2
⑰	とおす	41	⑤⑩	あきる	9		あげる(十分に～する)	2
⑰	あげる(～し終る)	36		こなす	9		あさる	2
	きる(すっかり～しおえる)	36		はてる(最後まで～する)	9		いる(今にも～しそうだ)	2
⑰	まわる	29	⑤⑩	あげる(ひどく～する)	8		いる(ひどく～する)	2
	わたる(すみずみまで～する)	29		かける(対向)	8		かえず(再行・対向)	2
⑰	はてる(限界まで～する)	27		くらす	8		かえる(すっかり～する)	2
⑰	きれる	25		そこねる	8		きる(はっきり～する)	2
	つける(強く～する)	25	⑥⑩	つける(習慣・強調)	8		くだす	2
⑰	かえず(対向)	24		おおせる	7		くたびれる	2
⑰	ぬく(最後まで～する)	23		そんじる	7		こける	2
⑰	たつ	21		はらう	7		すます	2
⑰	そこなう	20	⑥⑩	ふるす	7		ならわす	2
⑰	あるく	19		あぐむ	5		わづらう	2
⑰	おえる	18		いる(熱心に～する)	5		はたす(全部～する)	1
⑰	かえず(再行)	17		さす	5	⑥⑩	はたす(極限まで～する)	1
	かえる(ひどく～する)	17		ぬく(ひどく～する)	5		ちぎる	1
	かかる(対向)	17	⑦⑩	かかる(開始・対向)	4			
⑰	こむ(熱心に～する)	16		こむ(攻撃的)	4			
				こむ(強く～する)	4			

複合動詞後項の位置づけ

換言すれば、総合順位において上位に位置するものは、結合力が強く、広汎な動詞と結合し得る。その点においては、助動詞に近い性格をもっていると言える。一方、下位のものは結合力に欠け、特定の前項動詞とのみ結合する。その点においては、接尾辞に近い性格をもっていると言える。¹⁸⁾

表2を語列に、或は動詞の種類別に見れば、各々の結合条件がうかがえようが、ここではそれらの諸点については割愛する。

四 「後項動詞」の包摂力について

「後項動詞」の包摂力を考えるにあたって、まず、助動詞と接尾辞も含め、その包摂関係について見ておきたい。

時枝誠記氏¹⁹⁾は「詞」と「辞」の関係についていわゆる「入子型構造」で、たとえば、

行か
ず

の如く、「辞」が「詞」を外側から包摂すると説いておられる。そして、それは「語+接尾辞」の「春めく」が、

春
めく

と、全体で一つの場合とは構造を異にするとされて

ここで、「後項動詞」を「入子型構造」の考え方で分析してみよ

複合動詞後項の位置づけ

う。

たとえば、総合順位一位の「だす」を後項にもつ「降りだす」ならば、

×降り
だす

ではなく、「春めく」と同様、

降り
だす

となつて一つの客体的概念を表す。

総合順位最下位の「ちぎる」も同様で、

ほめ
ちぎる

となる。

これは、すべての「後項動詞」に普遍的な事実である。結局、「後項動詞」は接尾辞と同様、前項と結合することにより、一つの「詞」を構成する——一つの客体的概念を表す——ものであり、その点において、助動詞とは一線を画すものであると言える。

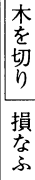
さて、「後項動詞」の包摂力は、結合力と同様、語によって差があるであろうか。

阪倉篤義氏²⁰⁾は、「切り倒す」「切り損なふ」等を例に以下の如く説いておられる。

前者は、後項の意味内容が具象的であり、

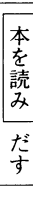


という構造ゆえに、「倒す」と意味的に結合しない修飾語は加えられないが、後者は、「切る」と意味的に結合し得るものであれば、「木を」「首を」「紙を」等、どんな修飾語を加えることもできる。それは、「損なふ」の意味内容が抽象的・形式的であるため、



と、修飾語を伴った前項を包摂する力をもっているからである。

「後項動詞」について氏の考えを適用するならば、たとえば、「読みだす」の場合は、「本を」「新聞を」「手紙を」……と自由に修飾語が加えられる。従って、



と表せるであろう。

しかし、「急いで読みだす」の場合は、「急いで」が「読みだす」全体を修飾して、



という関係にあると見るべきではないか。

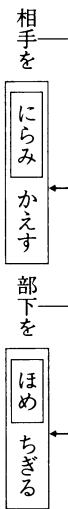
その他の「後項動詞」も、たとえば「にらみかえす」「ほめちぎる」ならば、前者は「相手を」「記者を」「審判を」……と、後者は「部下を」「作者を」「〇〇氏を」……と自由に修飾語が加えられる。

しかし、この点をもって、これらも



と表し得るであろうか。

これらはむしろ、「相手を」は「にらみかえす」全体の、「部下を」は「ほめちぎる」全体の修飾語となっており、「急いで読みだす」と同様の



という関係にあると見るべきではないだろうか。

ところで、『資料集』には「いばりちらしだす」「追いまわしだす」「論じあいだす」「売りつけはじめる」「書きたてすぎる」等の用例が報告されている。「だす」「はじめる」「すぎる」は「動作・作用の起こり方を示すもの」であり、それが傍点を施した「強調」や「動作・作用の方向を示すもの」を包摂しているのである。

また、受身・使役の助動詞をも包摂し得るものがある。

自分は、そこでは尊敬されかけていたのです。(太宰治「人間失格」新潮文庫 一七)

鈍感なお坊ちゃんじみた生活のしかたが葉子の鋭い神経をいらさせました。(有島武郎「或る女」新潮文庫 一三頁)

この点についても「入子型構造」で考えてみたい。

・皆で解決策を考え出した。

の「考え出す」は如何なる手続きをとっても

×解決策が(を)考えられ(させ)出した。

とは言えないが、

・皆がにわかに原発問題を考え出した。

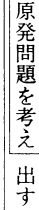
の「考え出す」は、

にわかに原発問題が(を)考えられ(させ)出した。

と言える。これは、前者が、



という構造であるのに対し、後者は



という構造であり、更に、



と明示し得るほどの包摂力を、「後項動詞」の「出す」が保持しているためであると考えられる。

『資料集』から同様の用例をもつものを例とともに挙げると次のようになる。

複合動詞後項の位置づけ

「だす」〈1〉「苦しめられ」

「える」〈2〉「満足させ」

「はじめる」〈3〉「行われ」

「あう」〈4〉「聞かせ」

「かける」〈5〉「殺され」

その他、上位のものがほとんどなのである。特に、上位三位までの「後項動詞」については、受身・使役の両方を包摂する例が報告されている。しかし、他の助動詞を包摂する例は報告されていない。⁽²¹⁾

更に、少々会話的になるが、

こんな話をしているうちに、女中が膳を運んで来始めた。(森

鷗外「青年」新潮文庫 一三五頁)

私はその友人の言葉を聞き終えるか終えないうちに、本通りの方の曲がり角から一かたまりの人影がこっちへ曲がって来たのだのを認めた。(堀辰雄『美しい村』新潮文庫 七三頁)

のように「動詞+てくる」√をも包摂し得るものがあることもつけ加えておきたい。

すべての「後項動詞」についての考察が必要であるが、以上のことから現段階では、「動作・作用の起り方を示すもの」は「強調」や「動作・作用の方向を示すもの」より包摂力が強く、それらは、「体言+格助詞」の修飾語を伴った前項をも包摂し得ると考えられ

る。

この包摂力の強弱はまた、総合順位と比例していると言えよう。つまり、上位には「動作・作用の起こり方を示すもの」が多く、上位にいくほど結合力・包摂力ともに強くなると考えられるのである。

五 まとめ

以上の考察をまとめると以下ようになる。

- ① 「後項動詞」の中には、結合力の強いものから弱いものまで幅がある。その点においては、前者は助動詞に近い性格をもっており、後者は接尾辞に近い性格をもっていると言える。更に前者には、意味特徴的に「動作・作用の起こり方を示すもの」が多い。

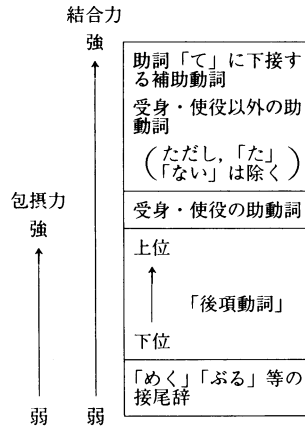
- ② 包摂関係の点から見れば、「後項動詞」及び接尾辞は、あくまでも客体的概念を構成する側に属す。この点をもって、助動詞との境界線が引ける。

- ③ 結合力の強いものうち、「動作・作用の起こり方を示すもの」の多くは、「体言+格助詞」の修飾語を伴う前項を包摂し得るほどの包摂力をもっている。またそれらの中には、受身・使役の助動詞をも包摂し得るものも多く、特に「たす」「はじめる」は「動詞+てくる」√の補助動詞をも包摂し得ること

を示す例がある。

- ④ ③の事実から、助動詞の中でも受身・使役の助動詞は、他の助動詞と区別して扱うべきである。

今、これらの事実に基づいて、「後項動詞」の位置づけを図で表してみたい。



六 おわりに

以上、形式的な意味を前項に添える複合動詞後項について、その結合力・包摂力の考察を通して、その位置づけを試みた。

しかし、小論はあくまでも複合動詞後項を中心にもあわせて考察する必要があり、接尾辞・助動詞・補助動詞についてもあわせて考察する必要がある。そのような全面的な考察をしない限り、真の意味での位置づ

けを果たしたことにはならないであろう。それを今後の課題とした。
い。

注

- (1) 参考文献②
- (2) 参考文献⑩
- (3) 参考文献⑬
- (4) 参考文献⑬
- (5) 参考文献⑧
- (6) 『国語学大辞典』・『日本語教育事典』の「接尾辞」「補助動詞」の定義には両項間に重複が見られる。
- (7) 一九八七年、国立国語研究所発行。文学・論説文・雑誌から抽出された複合動詞約七〇〇〇語と、数種の現代語の国語辞典から抽出された複合動詞約二八〇〇語をもとに、コンピューターにより整理された資料集。「五十音順複合動詞表」等、六表からなる。
- (8) 「か(交)う」「たくる」
- (9) 「はらう」
- (10) 参考文献⑫
- (11) その他、論説文・雑誌においても「ほめる」以外に前項動詞は見つけられなかった。
- (12) ここでいう評価とは、その語義が良い意味か悪い意味か、ニュートラルかということの意味する。
- (13) 参考文献⑭
- (14) 参考文献⑮
- (15) 参考文献⑯

複合動詞後項の位置づけ

(16) 筆者も金田一氏の方法に即し、「ている」を下接した場合のその動詞の表す意味により分類し、この場合も文を設定して考えるようにした。

- (17) 表中の「両隣結」とは、瞬間的作用―結果動詞と瞬間的動作―結果動詞のどちらとも解釈し得るもの(「入る」「離れる」等)を意味する。
- (18) 接尾辞の中にも「ぐむ」「ばる」「さびる」等のように、特定の語としか結合し得ないものが多いと思われる。
- (19) 参考文献④
- (20) 参考文献⑩
- (21) これは、山田孝雄氏が、文語の助動詞(「複語尾」)「る」「らる」「す」「さす」「しむ」を「属性のあらはし方に関するもの」として他の助動詞とは区別されていること(『日本文法学概論』)や、渡辺実氏が、「せる」「れる」等、使役・受身の助動詞の意義内容は、用言の素材概念を補足するものであるとされていること(『国語構文論』)などを想起させるものである。

参考文献

- ① 橋本進吉(一九三四)『国語法要説』(『国語科学講座Ⅵ 国語法』所収) 明治書院
- ② 湯沢幸吉郎(一九三四)『口語法精説』(『国語科学講座Ⅵ 国語法』所収) 明治書院
- ③ 山田孝雄(一九三六)『日本文法学概論』宝文館
- ④ 時枝誠記(一九四一)『国語学原論』岩波書店
- ⑤ 時枝誠記(一九五〇)『日本文法口語篇』岩波書店
- ⑥ 渡辺実(一九七一)『国語構文論』塙書房
- ⑦ 国立国語研究所(一九七二)『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英

出版

- ⑧ 寺村秀夫（一九八四）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- ⑨ 阪倉篤義（一九八六）『改稿日本文法の話 第二版』教育出版
- ⑩ 阪倉篤義（一九四九）『接尾語の位置』（『国語国文』第三五卷五号 京都大学）
- ⑪ 金田一春彦（一九五〇）『国語動詞の一分類』（『言語研究』第一五号 日本言語学会）
- ⑫ 武部良明（一九五三）『複合動詞における補助動詞的要素について』（『金田一博士古稀記念言語民族論叢』所収）三省堂
- ⑬ 福島邦道（一九六四）『補助動詞』（『講座現代語6 口語文法の問題点』所収）明治書院
- ⑭ 田中章夫（一九六七）『助動詞と接尾語』（『講座日本語の文法3』所収）明治書院
- ⑮ 藤井正（一九七六）『動詞＋ているの意味』（『日本語動詞のアスペクト』所収）むぎ書房
- ⑯ 吉川武時（一九七六）『現代日本語動詞のアスペクトの研究』（『日本語動詞のアスペクト』所収）むぎ書房
- ⑰ 長嶋善郎（一九七六）『複合動詞の構造』（『日本語講座 第四卷日本語の語彙と表現』所収）大修館書店
- ⑱ 斎藤倫明（一九八五）『複合動詞後項の接辞化——「返す」の場合を対象として——』（『国語学』一四〇集）
- ⑲ 阪倉篤義（一九八六）『接辞とは』（『日本語学』一九八六年三月号）